

SUMCO 株主通信

第18期 期末 2016年1月1日～2016年12月31日



● INDEX

- 01 ごあいさつ／連結業績ハイライト
- 03 2016年度の事業成績(概要)と
2017年度1Q(1-3月)の業績見通し
- 04 決算Q&A
- 05 特集：300mm
シリコンウェーハ需要動向
- 07 連結財務諸表
- 09 会社情報
- 10 株式情報・株主メモ



未来を創造する技術を育てています

証券コード 3436



代表取締役 会長兼CEO 橋本 眞幸

ごあいさつ

株主の皆様には日頃から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

半導体向けシリコンウェーハ市場は、データ通信量の飛躍的な増加により、データセンター向け需要が急拡大しています。また、スマートフォンの高機能化に伴う需要の伸長により、昨年半ば以降300mmウェーハを中心に強い需要が継続し、足許では需給が逼迫する状況が続いております。

さらに、200mm以下の小口径ウェーハも、自動ブレーキや車線キープ機能などに代表される自動車向けや、IoT (Internet of Things) 向けが著しく成長しており、通信・産業向けの需要回復とも相まって、好調な需要が続いており、新たな成長軌道に乗りました。

このような環境のもと、2017年第1四半期の半導体用シリコンウェーハ市場は、300mm・200mmともに強い需要が継続すると予想しております。

当社グループでは、「SUMCOビジョン」の方針に基づき、引き続き最先端技術開発の推進による製品の差別化を図り、顧客でのプレゼンスを高めるとともに、更なる合理化および生産性の向上により、収益基盤を強化してまいります。

2016年12月期の期末配当につきましては、当期における利益水準、将来の見通し、設備投資に係る資金需要および内部留保の状況等を総合的に勘案し、1株当たり5円、通期10円と決定いたしましたのでご報告します。

今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 会長兼CEO 橋本 眞幸

株主の皆様には平素より当社へのご理解とご支援を戴き厚く御礼申し上げます。

2016年度の業績は、数量の調整、価格の軟化に加え、円高の進行もあり、前期比減収減益と厳しいものになりました。

半導体向けシリコンウェーハ市場は、300mmウェーハを中心に強い需要が継続しており、2017年第1四半期の業績は前四半期から改善するものと予想しております。

このような市場環境のもと、今後とも伸長する最先端製品の需要を適確にとらえ、一層収益に貢献できるように、先端技術開発や高精度化投資による技術力の強化に努めてまいります。

また、歩留・原単位低減・生産性向上等のコストダウンを推進し、コスト競争力を高め、一層の利益をあげるよう努力してまいります。

確実に実力を高めていくことで、各種指標を改善し、中期目標としております自己資本比率50%、グロスD/Eレシオ0.5の財務体質の達成を目指してまいります。

株主の皆様には、今後も引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

代表取締役 社長兼COO 瀧井 道治



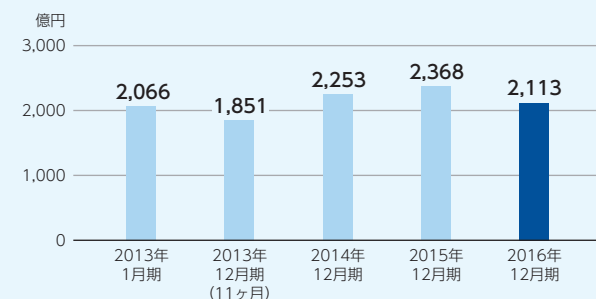
代表取締役 社長兼COO 瀧井 道治

SUMCO VISION

1. 技術で世界一の会社
2. 景気下降局面でも赤字にならない会社
3. 社員が生き活きとした利益マインドの高い会社
4. 海外市場に強い会社

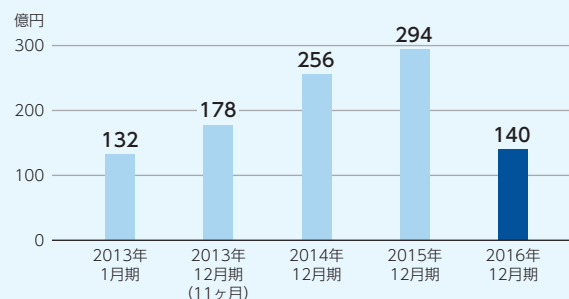
連結業績 ハイライト

売上高

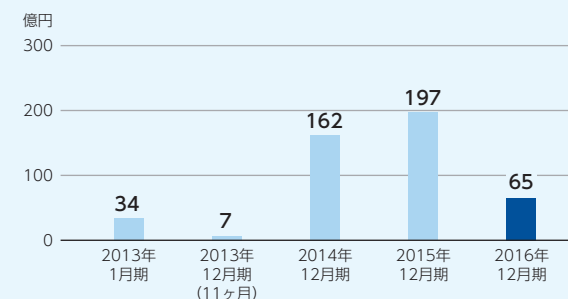


(注) 日本会計基準。グラフ中の数字は億円未満切り捨て。

営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



2016年度の事業成績(概要)と2017年度1Q(1-3月)の業績見通し

市場環境と事業成績および1Q見通し

2016年
(1-12月)
市場環境

2016年
(1-12月)
事業成績

今後の見通し
2017年
(1-3月)

2016年の半導体用シリコンウェーハ市場は、年初は2015年後半からの需要調整の影響が残りましたが、春先以降、スマートフォンの高機能化やデータ通信量の急速な増加に伴うデータセンター向けウェーハ需要が拡大し、強い需要が継続しました。

当社主力製品の300mmウェーハ市場は、スマートフォンの高機能化による1台当たりのシリコン消費量の増加やメモリー市場の拡大により、春先以降急速に回復し、需給が逼迫する状況が継続しました。

また、200mm以下の小口径ウェーハも、自動車・産業・通信・IoT等の需要により新しい成長軌道に入りました。

このような環境のもと、当社グループでは、「SUMCOビジョン」の方針に基づき、顧客の高精度化要求や製品の差別化に対応した技術開発により顧客でのプレゼンスを高めるとともに、コスト低減による損益分岐点の改善に努めてまいりました。

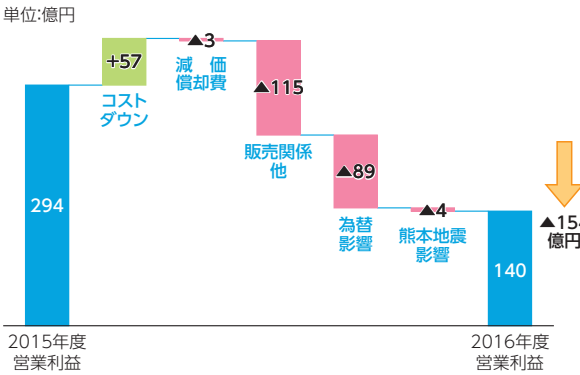
一方、年初来の急激な円高の進行は、当社グループの業績に大きな影響を与えました。

この結果、2016年度の当社グループの業績は、売上高2,113億円、営業利益140億円、経常利益99億円、親会社株主に帰属する当期純利益65億円となりました。

1-3月の半導体用シリコンウェーハ市場は、強い需要が継続し、300mm・200mmともに需給が逼迫する状況が続くと予想しております。

2017年度1Qの連結業績見通しについては、為替レート114円／ドルを前提としております。

営業利益増減分析(2015年度→2016年度)



2017年度1Q(1-3月)連結業績予想

項 目	2016年度1Q実績 (1-3月)	2017年度1Q予想 (1-3月)	増減額
売上高	(億円) 517	590	73
営業利益	(億円) 36	70	34
経常利益	(億円) 26	45	19
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(億円) 15	30	15
1株当たり 四半期純利益	(円銭) 5.37	10.23	4.86
為替レート	(円／ドル) 118.3	114.0	▲4.3

注) 業績予想等の将来に対する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因より大きく異なる可能性があります。

決算Q&A

2017年2月8日に開催しました決算説明会における主な質疑応答をご報告します。

Q

300mmウェーハの需要動向について
教えて欲しい

A

300mmウェーハ需要は、スマートフォン向けの需要とデータセンター向けの需要に牽引され、強い需要が続いています。

スマートフォンは、高機能化により、ロジック向けやメモリー向けの300mmウェーハの需要が増加しています。

また、最近では、写真や動画など膨大なデータがインターネットを流れ、クラウド・コンピューティングで処理され、データセンターに保存されています。

データ通信量の飛躍的な増加により、メモリー向け300mmウェーハの需要が成長しています。

Q

200mmウェーハの需要動向について
教えて欲しい

A

200mmウェーハ需要は、民生向け需要の回復に加え、車載向けの拡大や、IoT(Internet of Things)向け需要の伸長により、新たな成長軌道に乗りました。

車載向けは、例えば、自動ブレーキに代表される先進運転支援システム(ADAS)の増加に伴い、多くの半導体を使用し、1台当たりのシリコン消費量は増加しています。

また、さまざまなモノがインターネットに繋がるIoT向け半導体の需要も著しく成長しています。

当社の主力製品の300mmシリコンウェーハは、最先端技術で製造され、スマートフォン向けやデータセンター向けの基板として採用されています。

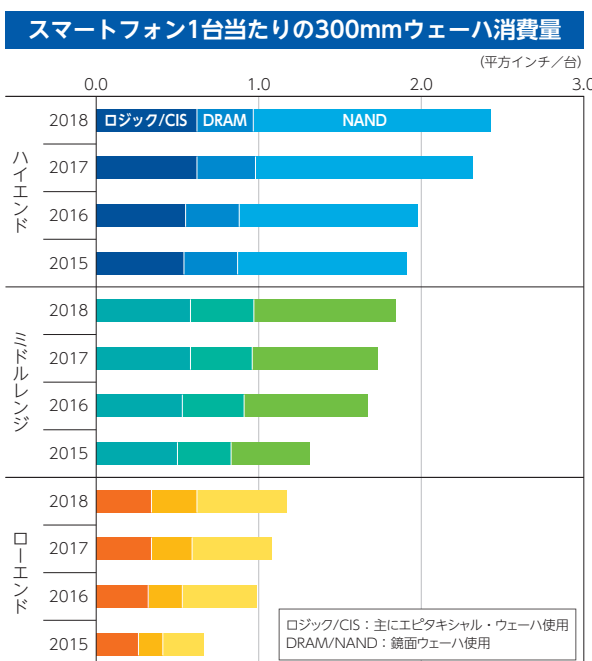
本年度のスマートフォンの世界出荷台数は、15億台程度に達し、年間成長率は鈍化しつつありますが、今年も台数は増加すると予想されています。

高機能化に伴い、スマートフォン1台当たりの300mmウェーハ消費量は、ハイエンド品からローエンド品まで年々増加する傾向にあります。

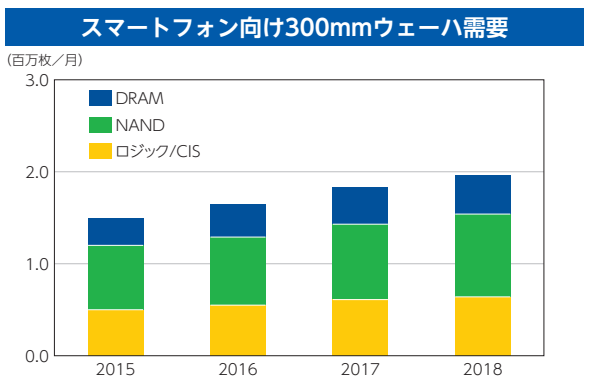
これは、DRAMやNANDを中心としたメモリーの搭載容量が増加すること。また、各種アプリを快適に動かし、データをより高速に演算処理するためのロジックが高機能化すること。さらに、カメラは前面と背面に加え、一部機種ではデュアル・カメラ化するためです。

これに加え、ミドルレンジ品の上位機種は、ミッドハイ品と呼ばれるようになり、メモリー搭載容量やロジック性能、カメラは、ハイエンド品と遜色のない機能を備えており、ハイエンド品と共に300mmシリコンウェーハの需要を牽引しています。

スマートフォン向け300mmシリコンウェーハは、DRAM・NAND向けの鏡面ウェーハと、ロジック・カメラ用の撮像素子(CIS)向けのエピタキシャル・ウェーハともに、2016年に引き続き、今年も増加すると予想しています。



【出典：各種情報よりSUMCO推定】



【出典：SUMCO推定】

スマートフォンやPCに代表されるように、さまざまなモノがインターネットに繋がり、写真や動画など膨大なデータが、クラウド・コンピューティングで処理され、データセンターに保存される時代になりました。

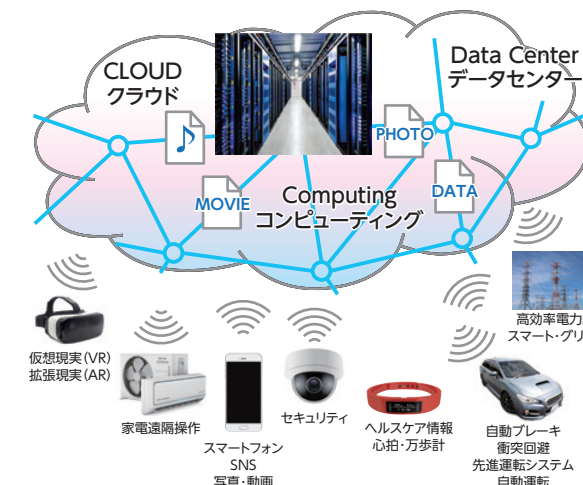
データ通信量は今後益々増加し、2020年には2015年の約3～4倍程度になると予想されています。

データセンターに保存されるデータは、主にハード・ディスク・ドライブ(HDD)に保存されていますが、最近、低消費電力でアクセス速度が速いNANDメモリー製のソリッド・ステート・ドライブ(SSD)化が進んでおり、シリコンウェーハ需要の増加が期待されています。

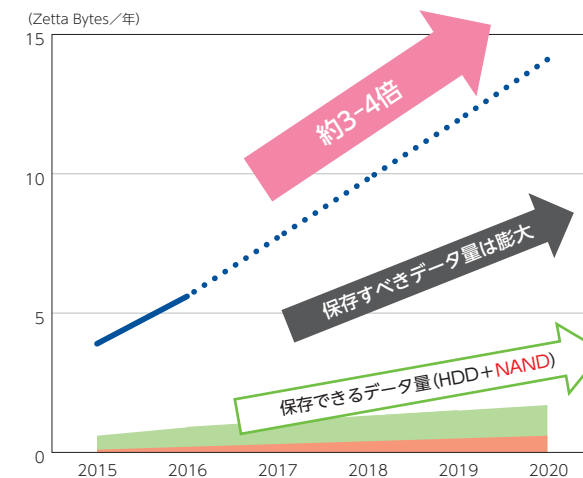
SSDの構成比率は、データ通信量の2～3%程度ですが、その比率は今後益々高まっていくと予想されています。

データセンターのNAND向け300mmウェーハは、データ通信量の飛躍的伸長とHDDからSSDへの移行により、シリコンウェーハ需要を牽引する大きな柱になると期待しています。

さまざまなモノがインターネットに繋がるIoT



世界のデータ通信量と保存されるデータ量



【出典：各種情報よりSUMCO推定】

連結財務諸表



第18期 期末 株主通信

連結損益計算書(要約)	前期	(単位:百万円、百万円未満切捨て)	
		2015年1月1日～ 2015年12月31日	当期 2016年1月1日～ 2016年12月31日
売上高		236,826	211,361
売上原価		182,272	173,092
売上総利益		54,553	38,268
販売費及び一般管理費		25,106	24,222
営業利益		29,447	14,046
営業外収益		952	642
営業外費用		4,861	4,769
経常利益		25,538	9,919
特別利益		323	—
特別損失		2,043	—
税金等調整前当期純利益		23,818	9,919
法人税等		416	1,144
非支配株主に帰属する当期純利益		3,653	2,187
親会社株主に帰属する当期純利益		19,747	6,588
設備投資額		15,765	16,513
減価償却費		21,795	22,002
EBITDA		52,876	37,645

当期の連結損益計算書のポイント (文中金額は億円未満切捨て表記)

売上高

年初は在庫調整の影響が残りましたが、春先以降は需要が伸長し強い需要が継続しました。しかしながら、年初来の円高進行もあり、その結果、売上高は前期比254億円減の2,113億円になりました。

営業利益

コスト合理化や修繕費などの費用削減を進めましたが、円高などによる売上高の減少の影響を補いきれず、その結果、営業利益は前期比154億円減の140億円になりました。

経常利益

営業外収益の6億円を加え、支払利息や為替差損などを含む営業外費用47億円を差し引いた結果、経常利益は前期比156億円減の99億円になりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

法人税等11億円、非支配株主に帰属する当期純利益21億円を差引いた結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比131億円減の65億円になりました。

設備投資 他

300mm高精度化対応を中心とした投資を継続し、設備投資金額(検収ベース)は165億円、減価償却費は220億円で、EBITDAは376億円となりました。

※EBITDA:営業利益＋営業内減価償却費＋のれん償却額で計算され、利益水準を示す指標の一つ

連結貸借対照表(要約)	前期末 2015年12月31日	(単位:百万円、百万円未満切捨て)	
		当期末 2016年12月31日	2016年12月31日
(資産の部)			
流動資産	258,818	275,019	
固定資産	231,024	218,224	
資産合計	489,842	493,243	
(負債の部)			
流動負債	111,550	105,191	
固定負債	133,751	145,215	
負債合計	245,301	250,407	
(純資産の部)			
株主資本	210,594	212,783	
その他の包括利益累計額	1,088	△ 2,954	
非支配株主持分	32,857	33,007	
純資産合計	244,540	242,836	
負債純資産合計	489,842	493,243	
自己資本比率	43.2%	42.5%	
グロスD／Eレシオ	0.9	0.8	

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

	前期	(単位:百万円、百万円未満切捨て)	
		2015年1月1日～ 2015年12月31日	当期 2016年1月1日～ 2016年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		31,768	27,322
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 13,416	△ 18,003
フリー・キャッシュ・フロー		18,351	9,319
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 38,136	△ 9,120
現金及び現金同等物の増減額		△ 19,907	△ 243
現金及び現金同等物の期末残高		45,809	45,565

当期の連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書のポイント (文中の金額は億円未満切捨て表記)

資産合計

償却の進行・長期前渡金の取り崩しなどにより固定資産が127億円減少した一方で、原材料及び貯蔵品の増加などにより、流動資産が162億円増加したことにより、資産合計は前期末比34億円増加の4,932億円になりました。

負債合計

短期借入金の減少等により流動負債が63億円減少した一方で、長期借入金の増加等により固定負債が114億円増加したことにより、負債合計は前期末比51億円増加の2,504億円になりました。

純資産合計

親会社株主に帰属する当期純利益の計上などによる株主資本の21億円増加、為替換算調整などによるその他の包括利益累計額の40億円減少などにより、純資産合計は前期末比17億円減少の2,428億円になりました。

自己資本比率、グロスD/Eレシオ

自己資本は前期末比18億円減少の2,098億円となり、自己資本比率は42.5%、グロスD/Eレシオは0.8倍になりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務が増加した一方で、税金等調整前当期純利益の減少や売上債権が増加したことなどにより、前期比44億円減の273億円になりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

300mm高精度化対応を中心とした設備取得などにより、支出は前期比45億円増の△180億円になりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払のほか、長期及び短期借入金の借入や返済などにより△91億円になりました。

※自己資本比率:総資産に対する自己資本の割合
※グロスD／Eレシオ:自己資本に対する有利子負債の割合

会社情報

(2016年12月末現在)

会社概要

商号	株式会社SUMCO		
本社	〒105-8634 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館 Tel：03-5444-0808 http://www.sumcosi.com/		
設立年月日	1999年7月30日		
資本金	138,718百万円		
従業員数	連結 7,520名 単体 3,501名		
IRお問い合わせ先	広報・IR室：03-5444-3915		
取締役 (2017年3月29日現在)			
代表取締役	会長兼CEO	橋 本 眞 幸	
代表取締役	社長兼COO	瀧 井 道 治	
代表取締役	副社長	遠 藤 晴 充	
取締役	副社長	降 屋 久	
	専務執行役員	平 本 一 男	
	常務執行役員	井 上 文 夫	
取締役 (監査等委員)	吉 川 博		
	片 濱 久		
	田 中 等	*	
	三 富 正 博	*	
	太 田 信一郎	*	
	中 西 孝 平	*	

* 社外取締役 (独立役員)

事業所		
本社	東京	
営業拠点	東京、大阪、福岡	
製造拠点	九州事業所	伊万里工場 (佐賀県伊万里市)
	九州事業所	佐賀工場 (佐賀県杵島郡江北町)
		米沢工場 (山形県米沢市)
		千歳工場 (北海道千歳市)
	JSQ事業部 (秋田県秋田市)	

連結子会社		
国内	SUMCO TECHXIV株式会社	(長崎、宮崎)
	SUMCOテクノロジー株式会社	(千葉)
	SUMCOサービス株式会社	(佐賀)
	SUMTECサービス株式会社	(長崎)
	SUMCO保険サービス株式会社	(長崎)
	日本台塑勝高株式会社	(佐賀)
海外	SUMCO Phoenix Corporation	(米国)
	SUMCO Southwest Corporation	(米国)
	SUMCO Funding Corporation	(米国)
	STX Finance America, Inc.	(米国)
	SUMCO Personnel Services Corporation	(米国)
	SUMCO EUROPE SALES PLC	(英国)
	PT. SUMCO Indonesia	(インドネシア)
	SUMCO Singapore Pte. Ltd.	(シンガポール)
	FORMOSA SUMCO TECHNOLOGY CORPORATION	(台湾)
	SUMCO Taiwan Technology CORPORATION (台湾)	

株式情報

(2016年12月末現在)

株式の情報		
発行可能株式総数	804,000,000株	
発行済株式総数	293,285,539株	
株主数	47,048名	
大株主の状況 (千株未満切捨て、比率は四捨五入)		
株主名	持株数(千株)	持株比率
新日鐵住金株式会社	53,933	18.39%
三菱マテリアル株式会社	53,933	18.39%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	13,162	4.49%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,019	3.42%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,113	3.11%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	6,895	2.35%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	5,856	2.00%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	5,612	1.91%
MSCO CUSTOMER SECURITIES	5,597	1.91%
THE CHASE MANHATTAN BANK 385036	3,805	1.30%
(ご参考)		
当社大株主である新日鐵住金株式会社および三菱マテリアル株式会社は、当社株式の一部を売却したことにより、2017年2月15日付で持株数が53,933,200株から39,346,400株へそれぞれ減少しています。		
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区	
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区	
郵便物送付先	〒168-0063	
電話照会先	Tel：0120-782	
インターネットホームページURL	http://www.sr	

株主メモ



第18期 期末 株主通信

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	
定時株主総会	毎年3月開催	
基準日	定時株主総会 期末配当金 中間配当金	毎年12月31日 毎年12月31日 毎年 6月30日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	
単元株式数	100株	
公告の方法	電子公告とし、当社のホームページ (http://www.sumcosi.com/) に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して公告いたします。	
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード：3436)	

ホームページのご案内

当社は多くの株主・投資家の皆様にご利用いただけるよう、ホームページの充実を図っております。決算関係資料やニュースリリースなどのほか、当社が製造するシリコンウエーハについての情報なども掲載しております。ぜひご利用ください。

SUMCOホームページ <http://www.sumcosi.com/>

■ 株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお手続きおよびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記電話照会先までご連絡ください。

■ 単元未満株式の買取請求について

単元 (100株) 未満株式の買取請求につきましては、株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
(証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。)

For All Innovation

シリコンウェーハは、普段生活する上では殆ど目にすることがありませんが、あらゆる電子機器に採用されているもので、実は生活に欠かすことができない製品です。

様々な技術革新が電子機器を進化させ、私たちの暮らしを豊かにし、文明を進化させます。より小さく、より大きく、より軽く、より強く、より早く。

技術者達は、過去の偉人達に挑戦し続け、乗り越え、革命を起こします。そして、その挑戦に必ず必要なのがシリコンウェーハの進化です。

社会の進展、人類の進化のためのあらゆる技術革新に貢献する企業であるために、SUMCOは、挑戦し続けます。

株式会社SUMCO

〒105-8634 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館

Tel:03-5444-0808

<http://www.sumcosi.com/>

見直しに関する注意事項

本資料に記載された予測・予想・見込み・その他の将来情報および将来推定は、現時点で当社が利用可能な情報および一定の前提または仮定(当社の主観的判断に基づくものを含みます。)に基づくものです。

実際の業績などは、国内外の経済情勢、半導体市況、為替動向、その他のリスク要因により、本資料に記載された将来情報および将来推定と大きく異なる可能性があります。



環境保護のために、
大豆インクを
使用しております。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。